

# 子どもファーム・ネット通信



◇内 容◇

- (1) 会員情報／いのちと食と農をつなぐ指導者養成講座… 2・3
- (2) いま注目の本… 3
- (3) 会員情報／JA食農教育全国研究集会… 4
- (4) 人物紹介 愛媛県／越智瑞啓さん… 4

第1号 発行／平成19年8月

発行人／全国子どもファーム・ネット推進協議会

編集人／子どもファーム・ネット全国事務局

電話：03-3266-9101 FAX：03-3266-9104

Eメール：kirari@kodomofarm.net

ホームページ：http://www.kodomofarm.net/

## ●今年度から年4回の「子どもファーム・ネット通信」を発行します。

子どもファーム・ネットに登録している、全国子ども農業体験グループのみなさんに、メールマガジンをお送りします。全国事務局からのお知らせや活動のヒントになる情報、グループの活動や交流のようす、会員団体からのメッセージなどをお届けします。

子どもファーム・ネット設立の趣旨でもある「子ども農業体験活動の質のレベルアップ&定着化」のため、志を同じくする各グループの活動支援者のみなさんやお子さんたちの「情報交換の場」として、積極的に活用してください。

## ●みなさんのお便りをお寄せください。どんどん掲載してまいります！

「メールマガジン希望」を選択していない方や一般HP読者には、メールマガジンの送信から一定のお時間をいただき、ホームページからも閲覧できるようにしていきます。

それでは、ホームページ本体とあわせ、通信のご愛読をよろしく申し上げます!!

### お知らせ

## 19年度子どもファーム活動コンクール 農業体験「かべ新聞」の募集がスタート!!

今年も8月1日から募集がスタート。昨年は38都府県の66団体から153点の応募がありました。入選50グループを選び、代表者（子ども2名、支援者1名）を招待して全国交流会を行い、楽しく交流しました。今年の応募要領はホームページをご覧ください。

### お知らせ

## 新しいHPで「交流の輪」を広げよう。 9月上旬・リニューアル!!

- ・交流希望のグループを募集、ご要望を聞いて紹介していきます。
- ・活動報告は、「子どものページ」のみにまとめて掲載していきます。
- ・会員団体情報を中心に、みなさんの活動に参考となる情報を提供していきます。
- ・「交流ブログ」を設けました。まずは気軽に会員同士で「交流」してみてください。積極的なご参加・ご協力をお願いします。

# 「いのちと食と農をつなぐ」 指導者養成講座

予定：11月23日（金）13:30～25日（日）12:00 会場／埼玉県さいたま市

食育・農業体験に必要なのは!? 子どもが自ら学ぶ「問題解決学習」への挑戦

## 「本物」をめざそう！ 当代一流の食育・農業体験実践講師の 技術と理論を大公開!!

いま、食育・農業体験活動（学習）の必要性が叫ばれるなか、いったい現代の子どもたち、地域の子どもたちに何を伝える（教える）のか、そのためにどの題材（米、野菜、畜産など）の、どの部分（生育過程など）がポイントなのか。さらに指導者に求められる知識・技術とは何かなどの解明が、喫緊の課題となっています。また、個別に考え取り組む段階から、地域で話し合い、連携して総合的にすすめる段階に入っている——との考え方のもと、これに賛同する当代一流の実践講師を招聘、開発研究を経て開催する、「食育実践研修道場」といっても過言ではないでしょう。

### <主なカリキュラム（予定）>

- 講演「なぜ、地域に食農教育が必要なのか」 講師／ジャーナリスト 榎田みどり氏
- 農作物体感コーナー 指導／JA鳥取県食農教育支援センター理事長 川上一郎氏
- 講演「農作物の『いのち＝ド根性』を伝える手法とは」 講師／同上
- ワークショップ「地産地消は世界を救う」  
講師／コミュニティスクール・まちデザイン理事長 近藤恵津子氏
- 講演「これからの食育実践手法（問題解決学習）とテクニック」  
講師／徳島県市場小学校教諭 藤本勇二氏
- 講演「イネの一生を人の一生にたとえて教える」 講師／なぐも原・結いの里代表 臼井隆氏
- 講演「畑・調理でのパフォーマンス術指南」&釜炊きご飯実習  
講師／さぎ山ファーム・イン「かあちゃん塾」代表 萩原知美氏
- 地産地消ディナー&トーク「地域で支えあう 地産地消と子ども農業体験」  
パネラー／浦和ロイヤルパインズホテル総料理長&（前述）萩原知美氏
- グループワーキング「子どもが自ら学ぶ食育・農業体験企画書をつくる」  
コーディネーター／（前述）藤本勇二氏

## <主な講師陣>



●食農教育研究者の  
川上一郎さん（鳥取）  
作物のいのちの不思議  
＝ド根性を教える、マ  
ニュアルを作ろう  
※↓で著書を紹介



●小学校教師の  
藤本勇二さん（徳島）  
成果は、「教える」か  
らでなく「子どもが自  
ら学ぶ」から出ます。  
※↓で共書を紹介



●ジャーナリストの  
榎田みどりさん  
なぜ食育か、地域で構  
築して初めて各個別の  
活動が「本物」に。  
※全国で講演活動も



●「お米の学校」の  
臼井 隆さん（新潟）  
田植は「小学校の入  
学式」です。イネも不  
安でいっぱいなのね。  
※東京10校でも指導

### ●開催のご案内

- 開催場所 埼玉県さいたま市民会館うらわ
- 宿泊施設 さいたま市／浦和ロイヤルパインズ  
ホテル
- 受講者数 50～60名
- 受講費用 2泊6食（ディナー費含む）、受講  
料、テキスト代 20,000円

### ●お問い合わせ・申し込み先

登録会員は、本講座に申し込みができます。  
連絡先は子どもファーム・ネット全国事務局まで。  
TEL. 03-3266-9101  
FAX. 03-3266-9104  
Eメール：kirari@kodomofarm.net

## 主催／社団法人 家の光協会

### 参考情報

#### 話題の本①

### 『野菜を育てて学ぶ 食育実践BOOK』

本書は、自ら生長する野菜  
（のど根性）に学ぶ、「基礎知  
識」と「実際」に分けた食育  
の必携マニュアル。食育の必  
要性が叫ばれるなか、いま、

「食育のベースの活動としての農業体験活動」がク  
ローズアップされている。しかし、農業体験で何を伝える  
（学ばせる）のか、そのために何の野菜を選択する  
のかが重要だとし、子どもの「知的好奇心」に訴える  
体験教育を奨める。そのため、トマトなど果菜類16  
品目、キャベツなど葉茎菜類15品目、ダイコンなど  
根菜類10品目の一品目ごとに、見つける（生育過程  
で見発見できる教育ポイント）、育てる（栽培の手順）、  
食べる（栄養や調理などの食教育のポイント）のキ  
ーワードに分けて紹介している。



川上一郎著・  
家の光協会  
定価1,260円

### 参考情報

#### 話題の本②

### 『学びを深める 食育ハンドブック』

「小学校食育の決定版！」と  
題した本書は、食育の、周到  
に練られたカリキュラムによ  
る効果的な実践と、知識教授  
やしつけでなく、徹底して子  
ども自身による主体的な問題  
解決を学びの方法とする実践の書。

「第1章／食育とは何か」、「第2章／学校における食  
育はどこに向かうべきか」、「第3章／題材別で考える  
食育」、「第4章／食育年間指導計画の実際」、「第5  
章／食育を支えるマンパワー」で構成されている。

圧巻は、第3章の拡散型教材研究としてのウェビ  
ング・実践編だろう。「米」「大豆」「大根」など、題材  
ごとに活動から内容に迫る学びの手順を明らかにして  
いる。小学校教師待望の書。



奈須正裕、  
藤本勇二編著  
学習研究社  
定価3,800円

## JA食農教育全国研究集会

9月18日(火) 13:00~19日(水) 15:00 会場/東京・大手町 JAビル

地域一体で取り組む JA食農教育の展開をめざして

### <主なプログラム>

☆9月18日(火) 13:00~17:15

- 「食から健康をテーマに地域を巻き込む」  
長野県JA佐久浅瀬
- 「直売所を食農教育の拠点に」  
福島県JAすかがわ岩瀬
- 「食農教育/JAトップの信念と担当者の役割」  
高知県JAしまんと

☆9月19日(火) 9:00~15:00

- 「教育の観点からJA食農教育への提言」  
上智大学総合人間学部教授 奈須正裕氏
- 「学校給食の現場における農業の教育的価値」  
学校給食を考える会副会長 野田克己氏

- 「食卓の向こう側に見えるもの」  
西日本新聞社編集委員 佐藤弘氏
- パネルディスカッション「食を軸に地域を巻き込む新たなJA食農教育とは？」  
秋田県JA秋田やまもと役員ほか コーディネーター/宮城学院女子大学教授 佐藤幸也氏

- 会場 東京・大手町 JAビル「国際会議室」
- 対象者 JAグループ役員・関係者、組合員組織リーダーなど
- 参加料 5,000円(資料代、19日昼食ほか)  
宿泊は各自で手配。
- 申込締切 平成19年9月7日(金)  
ただし定員250名で終了。

●お問い合わせ・申し込み先 家の光協会 次世代対策支援部 電話 03-3266-9038

### 人物 紹介

がんばる活動支援者 愛媛県ありんこクラブ

ゆりかご・こまどり幼稚園園長

おちすいけい  
住職 越智瑞啓さん

こがねいろ  
黄金色の大感動を  
幼稚園の子どもたちへ!!



今年も夏野菜がどんどん採れ、園児のみんなとスイカや初挑戦のメロンをおいしくいただきました。とっても甘いと大評判のスイカは、今年も無事、市場に出荷しました。

さて、わたしが初めて米を作ったときのことです。実りの秋を迎え、いよいよ明日は稲刈りということで田んぼに行くと、そこには黄金色に輝く米が稲の穂に沢山ついていました。その時の感動は未だに忘れておりません。「ああ、この米のために、昔の人たちは喜び悲しみを乗り越えてきたんだなあ」と涙が止まらなかったことを覚えています。では、この気持ちを子どもたちにも味あわせてあげられないものかと、あの手この手で考えていると、気がついてきたことがあります。それは、本物を見せてあげることが、心の教育には一番であること。口に入れるものを工夫して作ることが一番の方法であるということが。

次の年。園児が作った大根を畑で採ってその場で食べた時のうまかった味は、みんな、小学校へ行っても忘れていなかったそうです。

これが、わが農業幼稚園(?)の始まりです。



▶「活動報告」から事務局感動の1枚  
「お風呂になりました」

